

2024年1月2日「飛行機炎上事故に遭遇」備忘録

(石黒秀喜 2024年1月6日記)

2024年早々に「九死に一生を得る」というような体験をしました。記憶が薄れないうちに文字に残しておきたいと思い、本備忘録を書くことにしました。

1月2日の新千歳空港16時15分発JAL516便が17時47分に羽田空港滑走路で海上保安庁の小型航空機と衝突し、双方が炎上するという事故がありました。そのJAL便にて私、妻、娘と孫（高1、小4）の5人が帰京する途中での出来事でした。海上保安庁機は、元旦に発生した能登大地震の救援物資を運ぶためのフライトでしたので、この地震がなければ衝突事故もなかったことになり、その意味では能登地震の2次災害とも言えると思います。

新千歳空港を離陸した後のアナウンスで、関東地方上空は気圧が不安定なため17時10分ごろから機体が揺れるとの予告がありました。搭乗前に飲んだビールが効いて1時間ほど眠っていましたが、機体の上下の揺れが激しくなったせいで目が覚めました。その後、着陸態勢に入る旨のアナウンスがあり、飛行機がグングンと高度を下げてきたので、ようやく揺れから解放されると安堵した時に、いきなり大きく「ドーン」という衝撃を受け、バウンドと激しい横揺れをしながら滑走路を走行してから停止しました。窓の外がオレンジ色に輝いているのを不思議に思いつつ、その時は「今日の機長は操縦がへたくそだな」というぐらいの印象でした。

ところが、その直後にCAの「落ち着いてください！」「大丈夫です！」と何回も大声で叫ぶのが聞こえてきて、みるみるうちに機内に煙が充満するとともに異臭がしてきました。今度はCAの「姿勢を低くして！」という声が聞こえてきてので、煙を吸い込まないように身を屈めながら、脱出に備えてスマホや貴重品の入っている足元のポシェットを身に付けました。非常口がなかなか開かないためCAもパニック状態の様子であり、避難の誘導アナウンスもなく、自分たちはこのまま機内で焼け焦げるのかなという悲観的な思いが一瞬頭を駆け巡りました。日頃は長生きをしたくないので早くお迎えが来ないかなと言っている自分がですが、この時はこの場では死にたくないと思ったので、後日振り返ると言ひ不一致だと自嘲している次第です（眞途の土産にはなりそうですが）。

自分はうずくまって煙を避けるため、下を向いていたので気がつきませんでしたが、妻から「降りるよ！」と強く声をかけられて、ようやく非常口が開いて脱出が始まっていることを知りました。自分たちの座席は、最後部前列の59列目で、後方左側の非常口の近くでした。後方の脱出シーターは高さ7~8mで70度ぐらいの急勾配で、スライドが地面に一直線でした。飛び降りる感じの勇気が必要でした。意を決して飛び降りたら、孫たちが前を歩いているのが目に入ったので一安心しました。後方非常口から脱出した乗客は30人ぐらいでしたが、その中に私的旅行帰りのJAL職員が2人いて何かと声をかけていただいたのが心強かったです。

私が降りるときは、まだ機内40~50列ぐらいの乗客が相当数残っており、私が降りた後は数人しか降りてこなかつたので、機内に逃げ遅れた乗客がいるうちに火が回ってしまったのかと暗澹たる気持ちでした。燃料タンクが大爆発したら大変と思って、機体から少しでも離れるように移動して、寒空の下で迎えのバスが来るのを待っていました。妻と孫たちはダウンのコートを機内荷物棚に入っていたので置いてこざるを得ず、孫に私と娘のダウンを着せて寒さをしのぎました。妻にはJAL職員の息子さんがダウンを貸してくれました。有難いことです。少し気持ちが落ち着いてきて、スマホでニュースを見たら乗員乗客379人の全員が無事に脱出と書かれていたので安堵した次第です。ほとんどの乗客は前方2か所の

非常口から脱出したようです（当时、前方の状況は全く分かりませんでした）。

なかなか迎えのバスが来ないまま小一時間近く寒空に晒されていたので、業を煮やした娘たちがスマホのライトを付けて手を上げて大回しをして、空港職員に見つけてもらうようアピールしました。それが功を奏したのか、我々に向かって近づいてくる2つの灯りが目に入りました。それは電灯をもったANAの職員2人でした。この2人の方がJALのバス待機場所まで案内してくれて、ようやく寒さから解放されました。ANA職員に事故原因を尋ねたら、「飛行機に衝突したらしい」と聞きました。

その後は、バスで空港ロビーに移動し、番号が書かれたホルダーを渡され首にかけるように指示を受けました。私たちはN○1～5でした。そこで連絡先や手荷物の状況を登録する書類に記入して、次の指示を待っていました。その間、スマホでニュースを見たり、バドミントン仲間とラインのやり取りをして過ごしていました。

しばらくしたら、空港ビルの6階の大会議室のようなところに案内され、帰宅方法などの聴取を受けました。私の隣に座っていたご婦人は、「ハンドバックを持たずに脱出したので、財布もスマホも家の鍵もない。さっき誰かのスマホを借りて家に電話したので主人が迎えに来てくれる」と話していました。その後、水分やおにぎり、ブランケットなどの支給がありました。しかし、何のために待たされているのか、預けた手荷物はどうなるのか、いつになら解放されるのか一切説明はなく、内心はだんだんイライラしてきました。娘は、指示体制がバラバラで段取りが悪いと不満を口にしていましたが、そうはいってもJAL側だって予期しない突然の大事故で混乱はやむを得ないと思いました。

ようやく21時過ぎに会場のスピーカーを通じて案内があり、「出口で費用の立替精算書をお配りしますので、それを受け取ってお帰りください」「手荷物は、先ほどご記入いただいたご住所に後日お送りします」という簡単なアナウンスでした。そう聞いても手荷物が戻るという期待は持てませんでしたが。

会場をでたらマスコミのカメラや取材陣が大勢待ち構えていました。私たちは先頭集団だったので、記者が駆け寄ってきて話しかけられましたが、それに応対する気力もなかったので、記者には申し訳ありませんでしたが無視してエレベーターに向かいました。翌日に娘からのラインで、神奈川新聞にロビーで待機していた時の娘と孫たちの姿が映っている写真が送られてきたのにはびっくりしました。

このたびの事故でポシェット以外の荷物は全部焼けて、パソコンや北海道土産などを全部失ってしまいましたが、私たちだけではなく乗員乗客の全員の命が無事であったことを不幸中の幸いと思っています。孫たちは相当の恐怖・ショックを受けて脱出後はしばらく泣きじやくっていましたが、時間を経るにしたがい落ち着いてきて、翌日は笑顔も見られるようになったのでホッとしています。

翌日にはJALから電話がきて、「見舞金や手荷物の賠償金の手続きの書類を送るのでご記入の上で返送ください」という連絡を受けたので、その処理が終われば一件落着となります。

最後に、海上保安庁機に搭乗していて亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

参考情報

2024年1月2日 JAL516便 エアバスA350-900/ 機内座席配置 使用非常口



■JAL、150億円損失計上へ

■エアバス機全損、海保機との衝突事故

日本航空（JAL）は4日、東京・羽田空港の滑走路でJAL機と海上保安庁の航空機が衝突した事故で、全損した機体の簿価として約150億円の営業損失を計上する見通しだと発表した。機体の損傷に適用される航空保険の対象となる見込みという。

全損したのはエアバスA350-900型機で、369席を備える大型機。JALが国内線の主力機として保有する同型機16機のうちの1機で、2021年11月に引き渡された。（中略）

赤坂祐二社長は4日、報道陣の取材に、経営への影響は「そんなに大きくない」と話した。
(1月4日朝日新聞デジタル)



■日本航空は2日の事故について、羽田空港に着陸してから乗客乗員379人を出発した日本航空516便が、羽田空港のC滑走路に着陸したのは、2日午後5時47分ごろで、その後、滑走路上で海上保安庁の航空機と衝突し炎上しました。

日本航空機は衝突してからおよそ1キロ滑走を続け、その後、乗客乗員379人は3か所の非常脱出口から全員が避難しました。最後の1人が脱出用スライドから降りて地上に足を着いたのが午後6時5分で、機体の着陸から全員の避難が完了するまでの時間は18分間だったということです。

■今回の事故について海外メディアは、航空機事故が地上で起きる潜在的な危険性を浮き彫りにしたと伝える一方で、旅客機の乗客と乗員が全員、避難できたことを「奇跡的だ」などと大きく取り上げています。（<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240103/k1001430751000.html>）

後日談を追記（11日）

燃えた孫のぬいぐるみが戻る！という嬉しいエピソード

- 元旦に娘孫と4人で行った札幌円山動物園オフィシャルショップのお問い合わせセンターに、6日に次のメールを送信しました。

元旦に動物園に行き、以下の商品を購入しましたが、2日に東京に戻る際に羽田空港で炎上したJAL516便に搭乗していたため、燃えて戻らなくなりました。ネットで注文して再購入する方法がありましたらご教示ください。恐縮ですがよろしくお願ひします。

【オフィシャルショップ分：10:32 レジNo. 02-119794】

s:17033 リアルアニマルファミリー￥3,740、s:17014EA マスコットおすわりキョウカ
￥748、s:363NEW ホッキョククマ子￥2420、s:000000010 コットンバッグL￥330、
s:0101025027 転写2WAY 黒キョウ黒￥2500、

【オフィシャルステーション分：12:22 レジNo. 0043】

301-000722-000 マヌルネコ M4983979025228￥3,080

- すると、翌7日に同ショップより次の返信メールが届きました。

石黒様

この度はお問い合わせいただき、誠にありがとうございます。また、ご来店、ご購入いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。まずは今回の事故について、心よりお見舞い申し上げます。石黒様が無事で本当に何よりです。

大変な心労の中、お問い合わせいただきましてありがとうございます。レシートのナンバーと内容の確認が取れました。今回は大変な思いをされてしまったとのご事情がございますので、弊社（オフィシャルショップ）で購入いただいた分につきましては無償で発送させていただきます。

また、オフィシャルステーション様とは運営している会社が異なっており、こちらでの対応は基本的に行っておりません。ただ、今回に関しましては特別に一緒に発送可能かどうか、ステーション様に確認を取っているところです。

支払い等含め、確認が取れ次第、再度ご連絡いたしますので、もう少しお待ちください。想像を絶する体験で、お身体もお気持ちも疲弊されているかと思います。

微力ではありますが、一日も早く平穏な日々が訪れるよう、願っております。

- さらに、上記メールの数時間後に、次のメールが届きました。

石黒様

先程オフィシャルステーション様の確認が取れました。ステーション様も今回は無償にてご提供くださるとの事でした。商品が揃い次第オフィシャルステーション様のマヌルネコMも一緒に梱包し、発送させていただきます。

発送先の郵便番号、ご住所、氏名、お電話番号をご明記の上、こちらにご返信いただけますでしょうか？

お手数をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。

どうぞ引き続き、STORES をよろしくお願ひいたします。

- 9日に札幌円山動物園オフィシャルショップより宅配便が届き、娘宅に10日に持参しました。現地で購入した品物+お見舞いの品々が梱包されており、孫たちも大喜びでした。丸山動物園の両店の心温まるご対応に涙が出ました。心から感謝している次第です。